

会派代表質問

防災・減災対策で
安心・安全なまちづくりを目指して



秋葉 好美 議員

問 近年の自然災害は、年々悪化しています。令和元年の台風15号、19号、10月の豪雨と続きました。令和2年に入り、7月の豪雨も甚大な被害でありました。そこで、本市において、昨年の被害の検証後の対策を進めるに当たっての課題をお聞かせください。

答 現在、検証結果をもとに必要な対策に取り組んでいるところであり、ハード面の対策については、多額の事業費を必要とするため、財源の確保が最も重要な課題であります。ソフト面の対策については、事業費はそれほど必要とはしませんが関係機関や団体との協議、調整が大きな課題です。

問 次に、金谷川、小中川の進捗状況を伺うところでしたが、午前中同僚議員から同じ質問をされていますので割愛させていただきます。ただ1点、準用河川金谷川の改修工事が大変長引いているわけですが、この件について、金坂市長の見解をお聞かせ下さい。

答 金谷川改修事業は、防災対策だけでなく金谷川に並行した道路の整備により、駅周辺の交通の円滑化にも寄与する大変重要な事業であり、市としても優先的に取り組んでいます。

問 次に、水防活動について伺います。水防活動とは、現実的に災害が生じた生じようとしていいるときに、人命や財産を災害から守り、被害を最小限度にとどめるとあります。本市の水防活動はどのようになっているのか伺います。

答 本市においては、大雨などが予想される場合には、河川管理担当課の職員が中心となり、巡視や警戒を

実施しています。また、市消防団が水防団としての役割を担って、地域における水害防止に向け、巡視や警戒また、浸水地域での排水作業など実施しています。

問 次に小中川、南白亀川の水位計について伺います。千葉県のポータルサイトで、平時でも見られるようになっていきます。この情報をいち早く活用できないものかとの要望がありますが、如何かお聞かせ下さい。

答 千葉県の気象に係る緊急情報などの防災情報などを網羅した千葉県防災ポータルサイトでは、南白亀川小中川を含む県の管理する河川に設置されている水位計により、河川の氾濫危険水位などの警戒基準を確認することができ、避難情報を発令する一つの判断材料としています。

市民の皆さまに市ホームページから簡単にアクセスできるようにリンク先を掲載していますが、今後、周知もしてまいります。

問 次に、土砂災害について伺います。土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域があります。本市では、両方合わせますと90ヶ所あるとのことですが、そこを伺います。本番の土砂災害避難訓練での参加状況はどうだったのか。また、今後、局地的な豪雨により地盤が緩み、土砂災害に

対しての課題も含めお聞かせ下さい。大網地区、山辺1区の土砂災害区域にお住いの住民56世帯、19名の参加がありました。今回の訓練の目的である土砂災害時の避難のタイミング、避難経路、避難先等を周知していくことが課題であると思われ

ます。

関連質問

引間真理子議員



引間真理子議員

問 防災ラジオについて、災害時の情報取得方法が多かったのがNHK全国ニュース番組でした。東日本大震災では地震で停電、最後まで入る情報はテレビではなくラジオでした。情報を確実に伝達する手段として防災行政無線も受信する防災ラジオの普及が加速しております。AMラジオを聞いていても割り込み放送が行われる仕組みになっており、スマホなどを持たない障害者や自宅が長い時間過ごすことが多い高齢者を念頭に防災ラジオはとも有効です。本市の導入について、課題であった情報伝達、地域との連携について対応策をお聞かせください。

答 防災ラジオにつきましては現在の戸別受信機よりも安価であるといつたメリットもある一方で市の防災行政無線システムで対応可能か導入済みの自治体に情報収集、研究してまいりたい。情報伝達は区・自治会や自主防災組織との連携要領の構築やツイッターなどSNSの活用などを進めていく。

問 避難所開設キットについて、コロナ感染により避難場所の数が減る状況が想定されます。熊本地震で開設の初動が混乱し、その教訓を生かし避難所開設キットを作成しました。開設から受入れ運営と必要な小道具類が全てそろっており誰でも分かるようになっております。本市でも導入し地域の防災訓練等で活用してはどうかでしょうか。

答 避難所開設キットは各地区の集会所などを避難場所として使用する際にも有効であると考え周知を図ってまいりたいと考えております。

その他、防災出前講座の充実と工夫防災用品について伺いました。

関連質問

上代和利議員



上代和利議員

問 感染症対策を想定した避難所運営のありかたについて

答 コロナ禍において、災害時の避難所など不特定多数の方の集まる環境下では、感染リスクが高まります。市としては、市民の皆様へ避難所への避難だけでなく、可能な限り、親戚や友人宅など安全な場所への避難の検討を呼びかけている。十分な換気の実施、三密を避けるためのスペース確保、発熱、咳などの症状がある方の専用スペース確保として、学校施設においては、体育館以外の特別教室などを避難スペースとして利用するとともに、非接触型体温計間仕切りなどの備品類などを用意し対応する。

問 福祉避難所の運営状況および今後の対応について

答 中央公民館、大網白里アリーナなど優先的に開設する避難所に併設することとしている。県立大網白里特別支援学校や高齢者介護施設等と福祉避難所の協定を締結し、避難される要配慮者の様態等により、必要に応じて避難者の受け入れを要請することとしている。

問 マイタイムラインを活用しての防災計画策定について

答 自助としてのマイタイムラインの作成を通し、各個人の防災意識の向上を図るとともに、各地域における共助としての地区防災計画の策定にもつながり、相乗効果が期待されることから、マイタイムラインの作成を推進していく。

問 スマホでみられるハザードマップの導入について

答 市の津波、洪水ハザードマップは、市ホームページに掲載し、パソコンやスマホなどでみられる。

個人質問

小中池公園再整備

岡田 憲二 議員



岡田 憲二 議員

現小中池公園は平成8年の開園から20年以上経過し各施設の老朽化や施設の更新等の課題が生じている。その為平成30年7月に「小中池公園再整備構想検討委員会」を設置し検討してきた。私も13名の委員の一人としてさまざまな提案をしてきた。

問 小中池公園の今迄の来遊客数は。答 平成26年は年間約4万7700人、27年は5万7千人、28年は9万5千人。

問 ただ今「小中池公園」ではトイレ改修に着手している。改修内容は。答 トイレ間仕切壁の改修、屋根のふき替え、外壁の塗装、床のタイル張り、和式トイレの洋式化、小便器手洗いの水洗の自動化、ユニバーサルデザインに配慮した多目的トイレの改修、照明器具のLED化など。

問 私は公園再整備は10年スパンで行うべきと提案している。理由は本市は極めて深刻な財政難であるからである。1年ずつ行程表を作成し、今年はこのままで、来年はこのままで、年次計画を立て実践すれば10年間で無理をせずに立派な公園が完成する。この年次行程表は作成できるか。

答 公園再整備に必要な概算事業費を算出する中で国・県の補助金等財政確保の見通しを踏まえて検討する。再整備完成予想図を早く作成してもらいたい。

問 公園の再整備基本計画を策定する際にも必要となるので、今後検討しながら策定する。

問 市長、小中池公園を白里海岸に次ぐ第二の大網白里市の観光地に仕上げるという考えはどうか。

市長 本市は東西に長い地形であり小中池公園、雄大な九十九里浜とで対になって、これからも本市の観光

を支えていってもらえるような地域に作り上げていくというのは素晴らしい計画だと思う。そうしたことが実現できるようにぜひ力を貸していただければというふうに思う。

小中池公園と昭和の森公園を連結連携できるように千葉市と早急に協議をお願いしたい。また、小中池公園駐車場より池に上る坂道が急勾配な為、坂道に手すりを設置してもらいたいとの要望がたくさん寄せられているのでこの点も早急に対応してもらいたい。昨年小中池公園を調査した折に、桜の木が元気がないのに気づいた。見ると木にコケ等が一面に付着していた。加えて枝も花が咲かない立ち枯れになっているものが多数あった、後日公園担当の都市整備課の職員に桜の木の状態を話し、一本二本でも良いからコケをはぎ取り、枯れ枝を切り落としたりどうかと話したところ後日、桜の木全部を調べて、コケをはぎ、枯れ枝等の除去は全て終わりましたとの報告があった。地元小中の皆様のご協力があつたのはもちろんであるが、約百本ある桜の木を整備するのは大変なことである。

本市にはこのような優秀な若い職員がいっぱいいる。そういう優秀な職員を自由闊達に自分の力を最大限発揮できるように体制づくりをやらなければならぬと思っていた矢先、市長は3月定例会の冒頭に「一般職の給与を削減する」ことを公表しました。優秀な能力があり、また努力を惜しまないような職員は本市が最も必要としている財産である。その財産たる職員の給与削減は、市長、考え直すか、何らかの配慮をお願いいたします。